

第16回 鹿児島市コミュニティビジョン推進戦略会議 会議概要

【開催日時】 平成26年10月8日（水）午前9時30分～11時30分

【場 所】 鹿児島市役所 東別館9階 特別中会議室

【出席者】

○委員：石田尾委員長、籠原委員、神野委員、北方委員、迫田委員、清水委員、新留委員、末満委員、永山副委員長、藤井委員、文城委員、松田委員、南委員、山田委員
（欠席：岩橋委員）

○事務局：幾留市民局長、瀬戸口市民文化部長、平田地域振興課長、益田地域振興課主幹 ほか

【会次第】

1. 開会
2. 報告事項
 - (1) 第15回会議について
3. 協議事項
 - (1) モデル事業段階Ⅲ「地域コミュニティプランに基づく活動」の検証・評価とりまとめの確認について
 - (2) モデル事業の検証・評価報告書について
 - (3) 今後の推進スケジュールについて
4. その他

【会議の内容】

1. 開会
2. 報告事項
 - (1) 第15回会議について
 - ・【資料1】により事務局説明
 - ・【質疑なし】
3. 協議事項
 - (1) モデル事業段階Ⅲ「地域コミュニティプランに基づく活動」の検証・評価とりまとめの確認について
 - ・【資料2】により事務局説明
 - ・【質疑なし】
 - (2) モデル事業の検証・評価報告書について
 - ①【資料3】により事務局説明

・【質疑なし】

◎委員長

- ・分量があるので順次内容を確認していきたい。

②「1 コミュニティビジョンモデル事業の概要」「2 検証・評価作業」の内容確認

○委員

- ・些細なことであるが、私の校区において人はいろんな受取り方があって困っている。例えば2ページの地域コミュニティ協議会のイメージ図について、破線の中に校区公民館運営審議会がある。協議会に審議会が入っているのではないかという受取りをする人がある。これは立ち上げの段階のことですよと説明するのだが、「いや、こう書いてある。」と言われる。それから、「『みんなの町内会』にも書いてあるじゃないか。」と言われる。ここに括弧書きで、例えば、立ち上げの段階の構成団体とか少し書いてもらえば分かりやすいのではと感じた。たしかに、この下の図ではなくなっているが、そこを理解できない方がいらっしゃる。

○委員

- ・写真が5枚あるが、何か簡単なキャプションでも入れると分かりやすいと思う。どの何の様子かが分からない。

◎委員長

- ・これは入れた方がイメージがわかりやすいと思うので事務局は対応を。ちなみに、この写真はどこの地区なのかなど概略を説明してほしい。

●事務局

- ・地区名までは手元に資料がないが、左上は地域の資源確認、まち歩きの状況である。背を向けている方が説明員として参加者に土地の由来等について説明をしている状況である。右にいくとこれは桜島の爆発総合防災訓練の時の避難訓練の様子である。中央は八幡校区での協議の状況である。下の方は、クリーンアップ、ごみ収集など行っている。さくりんの旗もある。清掃活動をしている様子である。それから、下の右側、喜入の棒踊りの様子である。

◎委員長

- ・細部については最終報告書で入れるということをご了解いただきたい。ここまでよろしいか。

③「3 検証・評価結果 (1) 段階Ⅰ「設立検討から設立まで」」の内容確認

◎委員長

- ・6ページから9ページの前段までになるが、何かご意見があるか。
- ・よろしいか。それでは、段階Ⅰの「設立検討から設立まで」については以上とする。

④「3 検証・評価結果 (2) 段階Ⅱ「設立から地域コミュニティプラン策定まで」の内容確認

○委員

- ・コーディネーターは今何名いるか。

●事務局

- ・コーディネーターは6名である。

○委員

- ・どのような配置か。私が思うのは、地区ごとに、谷山なら谷山、上町なら上町と専従したほうが良いと思う。6名がそれぞれに。
- ・やはり、新規にこのような協議会を作るにあたっては、個人対個人の絆という信頼関係が大きく作用する。くるくると人が変わって同じことを何回も言っても、信頼関係がないと成り立たない。今まで私が活動してきた中で、痛切に感じているところである。

○委員

- ・文言について。他都市の取組状況とあるが、都市ではないのではないかと。鹿児島市以外の自治体とかの表現になるのではないかと。都市というのはすぐわない。

◎事務局

- ・ここでの都市というのは、3モデル地域が視察をしたのは薩摩川内市のそういうエリアであったり、始良の北山地域であった。その他に宗像市に行って話を聞かれたり、インターネットで情報を得て提供したりなどしているので、こういう表現をしたところである。

○委員

- ・都市と言うと、一般的には大きなイメージがあるような気がする。

○委員

- ・他都市等ではどうか。

◎委員長

- ・それではそのように変更したい。

◎委員長

- ・その他、お気づきの点はあるか。では、12ページまでの段階Ⅱのフェーズはこれでよろしいか。

◎委員長

- ・段階Ⅲについては、さきほどの協議事項(1)での意見を反映させるようにお願いしたい。

⑤「4 まとめ」の内容確認

◎委員長

- ・16ページのまとめについて、何かお気づきの点があれば意見をいただきたい。
- ・よろしいか。それでは、16ページまでの本文の内容について確認をいただいたということで、報告書でとりまとめをさせていただくこととなる。

⑥「資料」の内容確認

◎委員長

- ・何かご意見等はないか。あるいは、この他に必要な資料等があれば意見をいただきたい。
- ・資料とともに、最後に委員の名前があるので、文字等の間違いはないか、確認をいただきたい。
- ・では、資料については特に意見がないようなので、説明を受けて了とする。

⑦まとめ

◎委員長

- ・以上で、モデル事業の検証・評価報告書の内容について確認をさせていただいた。このモデル事業の検証・評価報告書については、ただいまの皆さんのご意見も事務局で反映をして、それをもって、推進戦略会議としての最終的な報告書とさせていただきたい。そのような取扱でよろしいか。

○委員

- ・はい。

◎委員長

- ・それでは、了解をいただいたので、そのように取り扱う。
- ・それから、さきほど事務局からもあったが、10日に私と永山副委員長で推進戦略会議を代表し市長さんへ報告書の提出をさせていただきたいと思う。私も是非出席したいという方がいらっしゃったら検討の余地をさせていただきたいと思うが、よろしいか。

○委員

- ・はい。

◎委員長

- ・では、報告書を提出させていただくこととする。

(3) 今後の推進スケジュールについて

- ・【資料4】により事務局説明

○委員

- ・13地区で説明会と言われたが、全部の地区ということになるのか。

●事務局

- ・13地区は地域公民館のエリアを大きく分けている。実際には地域公民館は14あるのだが、桜島は1つにまとめ、市内を大きく13のブロックに分けた形で説明会を開催していきたいと考えている。

○委員

- ・設立にあたって、皆さん住民意識調査をされている。それぞれ、3モデル地域でされていると思うが、1から考えるよりも、このようなのを作られていますよというのがあった方が時間の短縮になると思う。どこの校区のということではなく。

●事務局

- ・設立にあたっての意識調査ではなく、プランを策定する際にそれぞれアンケート調査をされている。この報告書については、3モデル地域の取組の経過なども資料として含んでいるので、そういったものも、地域の皆様に参考にしていただければと考えている。

○委員

- ・大変良いものができたなど関心して見た。市長へ提出するときの様式だが、こういうものになるのか。

●事務局

- ・表紙と裏表紙については、若干厚めの紙を用いて、中身はこういったコピーになる。あと、製本テープで体裁は整えたい。

○委員

- ・その後だが、これはどこかで公開されるのか。

●事務局

- ・市長報告をし、また議会にも適切な時期に報告したい。それ以降は地域の皆さんから、どういう取組をしてきたのか、現状がどうであったのか、そういったご案内をする際にも希望があれば提供していきたいと考えている。

○委員

- ・これはこれで良いという評価なのだが、この中で例えば、こういうことを検討してほしいとか、いくつか、これから進めていく上で重要なこととして指摘された部分がある。その部分の検討というのはどういうふうに進められるのか。そして、我々はその検討結果を知る機会があるのかどうか。

●事務局

- ・今後の取組については、まずは希望調査をする。そして希望調査に基づいて、27年度早期に取組を進めたいというところは、基本的にはモデル地域と同じような支援の形になっていくが、この報告書にあるように地域実情を十分考慮しながらということであるので、それぞれの地域における皆さんがたのご意見、それからさきほど老人クラブからもあったが、コーディネーターも含め私共との信頼関係ということも大事に

なってくると思うので、そういった点にも留意しながら取組を進めてまいりたいと考えている。

- ・なお、この推進戦略会議については、これからも継続的に開催をお願いしたいと思っているので、それぞれの取組の状況等については、またとりまとめたものを報告したいと考えている。

○委員

- ・報告書では具体的ではない。例えば、コーディネーターが蓄積したノウハウを新しいコーディネーターにしっかり受け継いでもらうように研修をした方が望ましいというまとめがある。そうすると、それはどういう時期にどういう形で実施されるのかというのが当然その後問題になる。また、地域ごとに補助金の使い勝手がいいように検討してほしいと書いている。それは検討されるのか、されないのか。されるとすれば、いつして、その結果どういうことになったのか、ということが知りたいわけである。
- ・ここに書かれていることをどう次の段階で実現したかというのを具体的な事例を通して知っておきたいというのが希望である。

◎委員長

- ・今回の報告書でとりまとめて、皆さんに了承をいただいたことになるが、文章の中にこういうことを大事にしていきたいとか、こういう方向性をというように書いてあるので、それらについて、その後の、報告書の後のそういう意見を集約して取組の参考になるような、回答集ではないが、そういうような報告ができるような手立てを取ってもらいたい。我々もしていきたいと思う。共通認識を持つために。報告書の段階と、その後の段階の取組ということで理解いただければよいと思う。

○委員

- ・今後のスケジュールに地域別説明会というのがある。地域の公民館のエリアでとのことだが、そのエリアの必要とする校区が集まって、説明会をしてほしいという表明をするのか。その前の希望調査の中で要望を提出するようなのがあるのか。

●事務局

- ・設立時期希望調査については、27年度、28年度は上期下期で希望されるところに丸をお願いしたいと考えているが、27年度上期下期に丸をされている校区の関係者の方々に集まっていただき、13地域に区分はするが、具体的な手順の説明をさせていただくと考えている。
- ・28年度以降になる、あるいは、まだ具体的に計画として地域合意を図っていないところには、また別の、校区公民館運営審議会を中心とした説明等については継続してまいりたいと考えている。

○委員

- ・そうすると、希望調査書というのが各校区に配布されるということか。

●事務局

- ・さきほど申した10月上旬にはもう入っているわけだが、今週中には各校区公民館運営審議会の委員長宛にお送りしたいと考えている。また、11月末までに回答をいただきたいという文面をしているので、その間に校区公民館運営審議会等の会議がある

中で、皆さんでご協議をいただき、設立をどの時期、そして、準備を進めていくのかといった事柄を回答いただければと思っている。

○委員

- ・この報告書の中でも指摘されている、活動を皆さんによく知っていただくことが必要であるという話が出てくるが、先般行われた公開シンポジウムは本当にいいシンポジウムであったと思う。それで、あれはその後、テレビニュースとか新聞報道とかになったのか。私は気付かなかったのだが、あんなにいいシンポジウムをやったのに、マスコミに取り上げてもらえなかったのかなという気持ちがあった。何か載ったのか。

●事務局

- ・地元紙にはその後記事として載った。

○委員

- ・とても素敵な素晴らしい中身の濃いシンポジウムであったので、ぜひ皆さんに知っておいてもらったほうがいいなと思う。そういう広報を怠りなくやって、できればテレビ放映か何かをしてもらいたかった。
- ・ただ、一点気になったのは、フロアからの発言が一人の方からだけであったので、もうちょっとあったら良かったのにと思った。中身はものすごく充実していたけれどという感想である。

◎委員長

- ・やはり広報周知というのは大事だと思う。会を重ねるごとに新たな発見もあるし、成果もある。広報には今後またぜひ力を入れていただきたいと思う。

○委員

- ・私も参加させていただいたが、大変素晴らしいシンポジウムであった。
- ・また、地域コミュニティ協議会の設立が始まりますというチラシを市から配っているが、せっかく配るのだから配り方を工夫してほしい。

○委員

- ・私も参加した。人数は200人ほどであつたらうか。休憩時間に知り合いに、どのような状況かと話しかけたが、ある校区は審議委員長だけでなく、町内会長や専門部の方なども参加しており、関心の深さを感じた。そういうった校区では進んでいくのだろうと思った。
- ・また、昨日、一昨日であつたか、市民のひろばが配られた。その別冊の中に、協議会のことが書いてあつたのも読んだ。やはり、広報、さきほど言われたような新聞、テレビなども必要だなとつくづく思った。
- ・もう一つ、私たちの校区は、2つの町内会が校区が別々で二重になっている。例えば、雀宮というところは、戸数が600～700戸くらいで、吉野校区と大名丘校区になっている。これをどういうふうにするのかということ。向こうがこう、こっちがこうということではいけない。連携を図りながら進めないといけないと、課題であると思っている。

○委員

- ・校区公民館運営審議会審議委員長に、このコミュニティの大切さを理解していただくにはどうすればいいかと悩んでいる。10月から設立時期希望調査がはじまる。先日も運営委員会があったのだが、何の話もなかった。自分でそれを言うべきなのか、どうすべきなのか迷っているところである。皆さんに、そういったところのお知恵をかりながら進めていかないと、一番ビリの校区になってしまうのではないかと、一人で苦慮している。

○委員

- ・私の校区でも誰が言い出しっぺになるかというのは大事なところである。校区公民館運営審議会が発起人というか、その中心になりましょうねとだけ昨年度の最終回のときに約束して進めた。中々上手くはいかないが。その次に、昨夜、審議会があつて、協議会について話したのだが、委員はがっかりするくらい情報を得ていない。考えようとしなさい。それで、疑問点をカードに書いてもらい、全部集めた。何をいま知りたいのか、何がいま問題なのかというのを書いてもらった。ゼロからのスタートである。スタートにそれをすべきだったと思った。疑問点を出してもらって、何を知りたいのかというところからスタートしないと中々協力が得られない。

◎委員長

- ・立ち上げ段階は、事情説明を振り出しに戻りながら何回もしていかないとならない。委員長からのお願いであるが、現場に立ち会ってこられた地域連携コーディネーターに少しコメントをいただきたいと思う。

●地域連携コーディネーター

- ・立ち上げをする際には検討委員会という名目を立てていたが、校区公民館運営審議会あるいは町内会連合会とさまざまな団体があつたわけであるが、3モデル地域においても、審議会から2、3名、町内会に関わる方から2、3名というように、皆さんの意見が盛り上がりつつある中で、それを誰かがしなければいけないということで、地域のリーダーの方々5、6名くらいが集まって、その中で、最終的な結団をしましうやと、そして、発起人という言葉が出たが、私たちがリードしながら、次の段階の準備委員会というように啓発して、これからの取組のあり方を検討していきましようやという形の段取りを取っていったところである。
- ・そこには、喧々囂々あつた。ながれをどうするのかなどいろいろなことがあつたが、それが煮詰まっていきながら、進んでいったので、誰かがお願いをして、この形の中で、誰かと誰かと誰と誰をととして、まとめ役にしてもらいましようやということで、していただいたところである。そうすることで、他の方々もだんだんその段取りが見えてきたので、そのながれが進みつつあつたと思う。進んでいく時には、右にいったり左にいったり進んでいなかったりすることもたくさんあつたが、そこをなんとか作り上げていくことが大事であると思う。
- ・そして、準備委員会に入って、設立のながれを順番に点検しながら取り組んでいったので、その中で、設立するまでもいろんな課題があつたと思うし、いろんな意見もあつた。スタートしてからもいろんな意見がある。だが、だんだんだんだん意識が固ま

りつつあって、活動がスムーズに流れるようになってきたのではないかと思います。

- ・誰かと誰かにお願いして、やっていこうやという形が最初のスタートであったかなと思う。審議会に任せても、町内会連合会に任せても、中々誰がするのかというのがあったと思う。地域の事情はいろいろあると思う。

○委員

- ・うちの校区は28年度からと考えている。設立準備委員会の前の準備委員会をもう立ち上げている。審議委員長が積極的なものもあるが、メンバーも50代が4名、女性が1名、あと60代。各種団体連絡協議会の会計、町内会長会の代表、成人学級長やスポーツ推進員など、長く校区公民館運営審議会に携わってきた人たちである。40代くらいから関わってきた人たちである。だいたい10名くらいで先月設置し、最初は町内にどんな団体があるかだしてみましようとした。次は、どういう部会にしたらいいかと話している。準備委員会の前の段階でその話をしている。皆さん積極的である。
- ・さきほどあった、誰が手を上げるかというのと、メンバー構成である。やっぱり、審議委員長の考えで言うと、これから先なのだから、60代の人よりは50代がたくさんいた方がいいんじゃないか。そうすると、あいご会長だったり、スポーツ推進員などのメンバーを拾い出す。委員長が、何人かに声を掛けながら広げていくしかないんじゃないかなと思う。
- ・どうしても、立ち上げの産みの苦勞があるが、その苦勞を早くやろうとしている。先の苦勞を今やっているので、スムーズにいくと思う。うちは今度はしないがねではなく、28年度だけ今のうちに何とかしようかとしている。
- ・だから、アンケートの話も、プランは設立してからだよと言うのではなく、資料があれば事前に検討することはいくらでもある。設立準備の段階からモデル地域では苦勞されて、その例があるのだから、どう反映させるかというのを私たちはできるわけである。
- ・だから、皆さんも立ち上げの1人になることができる。この会議もそのための会議かもしれないなとも思う。

○委員

- ・市もいろんな所に説明に回っている。相当な数をしているが、全体的に中々賛同が得られない状況であるようである。
- ・一番心配しているのは、事務関係、運営費、行事に対する補助等は果たしていつまで続くのだろうということである。例えば、私の校区社協の場合、市の社会福祉協議会からいろいろ補助をいただいているが、それがどうなるかということで問い合わせがあった。私は市の社協の役員もしているので、現在している必要なものについては今後も引き続きということで、ちゃんと文書を作って回答もしたのだが、中々信頼してもらえない。先のことであるから。だから、いろんな面で、そのような運営をするための、市の補助というか支援というのをはっきりとしていただければと思う。
- ・それから、この会議でも報告があったか、モデルのどの協議会であったかが、さかんに会議をしていた。私の運営している校区社協なども会議はできるだけ少なくして、

部を作って、部が計画をしてというのをしている。だから、会議が多くなるんじゃないかと、町内会はそのままでいいと言っているので、心配している。

- ・だから、賛成をしてもらえそうな意見をいつもどの会場でも言うのだが、中々信頼はしてもらえないような気がしている。

○委員

- ・審議会で市からの説明を2回受けた。しましよと言ったら、しましよと言ってもらえたから良かったが、それも断られるのではないかと思っていた。とにかく、審議委員を説得することが大事だと思う。
- ・そして、この3モデル地域から、私たちは良かったというのは聞いているが、大変だったというのがやはり聞こえてくる。考えれば考えるほど大変である。アンケートはどうするのだろうか、他の人を説得するにはどうしたらいいのだろうかと思うと、大変だな、ちょっと難しいよねとなる。
- ・準備期間はいっぱいいるだろうなと思う。大変さというのを聞くと難しくなる。良かった良かったというのを広めないといけない。
- ・会議が多いというのが出たが、私も町内会の役員に話をしたら、町内会の役をやっているのに校区の役までくるのではないかという恐れを持たれた。そんなにまでできないと言われた。とにかく、これが分からないことにはいけない。
- ・やはり、広報というのが大事だと思う。テレビでも言ってもらえたらと思う。今、市役所を回ると、この広報チラシがご自由に取ってくださいというところにはない。みんなに知ってもらうことが必要である。

○委員

- ・審議委員会というのは地域の中の組織の代表が入っているので、自分の組織の立ち位置が皆さん心配なのである。うちの組織はどうなるのかと、それぞれが思っている。うちの組織にきていたプラスのものがなくなるんじゃないかとすごく心配している。そういうものを一緒になって話し合うというのが大事だと思う。そこをモデル地域ではどういうふうにしたのかという情報をもって、私が持っていたりしている。うちの校区はものすごく盛り上がってきた。
- ・それから、この間のシンポジウムにも、校区から十数人参加して、参加した人の感想を即、審議会でもらった。私が審議委員長なので、やるべきだということをすごく言っているので、小委員会ができて、やるなら今だというようになった。
- ・タイミングを掴むというのも大事なかなと思う。だから、審議委員長に、モデル地域の会長のような人と会話してもらって、よさを伝えてもらうのも一つの方法かなと思う。一人一人を説得していくのがものすごく大事なかなと思ってやっている。一人が一人を誘ってコミュニティができていくのかなと思う。いろんな意味で、立ち上げられそうな空気ができあがってきたと思っている。

○委員

- ・自分がその長であれば、大事だということを言えるのだが、やはり下にいると、「なんよ、おまんさあが。」と言われるような気がして、2歩くらい引いてしまう。自分がそうい

う立場であれば、引っ張るのもできるのかと思う。大事さは分かるのだが、それをどこでというのはある。

◎委員長

- ・立ち上げ時について皆さん心配の種の方が多くて、実りの方がどうだろうかと天秤にかけられている。私も、先日、永山委員から呼ばれて、地域コミュニティ協議会の設立についてということをお話してくれて言われて、どのような雰囲気か知らないで飛び込んで、吉野公民館で少し話をさせていただいた。結論から言うと、後で報告を聞くと、一応やろうという方向は決められたということであった。だから、説得する手段、内輪だけで同じような話だけで堂々巡りをしている中々大変だと思うので、外部の人を呼べばいいと思う。やはり、心配事もどこが心配なのかというのが分かると答えができる。それが分からないで心配ばかり言っていると中々対応ができないと思う。
- ・やはり、押さえるべきキーポイントがあって、先程言ったように、校区公民館運営審議会というのは、町内会を含めいろんな組織が入っているが、組織的にはソフトのまちづくりである。今までは教育委員会がベースになって成果をあげてきた。成人学級など。ところが、これからのまちづくりというのは、ソフトだけでなく、ハードも含め、災害対策など、生命や財産を守るためみんなで総力を上げてやっていかないとけない時代なのに、今までの組織だけで可能なのかと話していくと、皆さんが考える機会が出てくると思う。
- ・だから、同じ投げかけだけしていると中々前に進まないの、やはり、自分たちで行き詰まったときは、先に動いている人たちを呼べばいいと思う。立ち上げの時の大事なヒントをもらえるんじゃないかと思う。だから、焚き付け役として話を聞ける機会を作ってもいいと思う。

○委員

- ・前回の会議でも話したあいご新聞が昨日発行された。この中に、中名の協議会ができて良かったという文章がある。これは、校区によって全戸配布であったり、回覧であったりするので、手元に届かない場合もあると思うが、該当部分の拡大コピーを持ってきた。

◎委員長

- ・変化が見えるというのが良いと思う。どこが変わってきつつあるのかというのが。
- ・だから、町内会の話がよく出るが、町内会も今のような市民権を得るのには何十年という時間がかかっている。やはり、課題解決型にしていくためには、まず、課題を発見する必要がある。見抜かないと解決できないわけだから、時間はかかっていくと思う。
- ・でも、組織として立ち上げていくということになると、従来やってきた取組の中で不足している部分を取り上げてみんなでカバーしていこうということである。町内会だけで解決できないことは、他の団体から見える点というのはあると思う。そういう話をできる場を作っていくのが最初だと思う。

◎委員長

- 皆さんが話されているのは27年度からの設立に手を挙げることを中心にしているが、私が今日進めたいのはモデル事業をやってみて、こういうように報告書としてとりまとめ、今後の取組のスケジュールについては、随時13ブロックで説明会を開催していくということなので、最初に手を挙げた方がいいかどうかという問題ではなく、やはり機を逃さないようにというのは注意しなければならないと思う。

4. その他